

モバイルファーマシー（災害時対策医薬品供給車両）について

モバイルファーマシーは東日本大震災の教訓から開発された特殊車両で、大規模災害等でライフラインが喪失した場合でも自立して調剤業務と医薬品供給が行える車両です。横浜薬科大学、横浜市薬剤師会、横浜市の3者で共同運用しており、全国で唯一2台所有しています。

大規模災害等発生時にはモバイルファーマシーで被災地へ赴き、災害救助法が適用された地域で支援活動を行います。

実際に、能登半島地震の被災地支援に出動し、災害処方箋の調剤や服薬指導、一般用医薬品の提供、避難所の公衆衛生活動、災害医療チームへの同行等を行っています。

平時は災害訓練への参加や市民祭等で車両の展示を行っています。



モバイルファーマシーには、通常の薬局にある設備（錠剤棚や分包機、水剤台や薬品保冷库等）以外にも、発電機や注射剤を作るクリーンベンチ、衛星電話、簡易ベッド等も搭載しています。